

2003年度春季大会における専門分科会「気象予報士としての仕事と社会貢献」の趣旨説明

12月号の「2003年度春季大会の告示」でお知らせした7件の専門分科会のうち、掲載できなかった標記分科会の趣旨説明をお知らせします。

なおこの分科会は招待講演のみで構成され、講演の公募はありません。開催日は、研究機関に所属しない方に多数参加して頂けるよう5月24日（土）午後とする予定です。会場はつくば国際会議場です。

講演企画委員会

テーマ：気象予報士としての仕事と社会貢献

趣旨：1994年に気象予報士制度ができて8年になる。この間に、4000名の気象予報士(2002年11月現在)が誕生し、社会的な認知は確保されている。

この制度は、防災情報と密接な関係を持つ気象情報が、不適切に流されることにより、社会に混乱を引き起こすことのないよう、数値予報資料等高度な予測データを、適切に利用できる技術者を確保することを目的として、創設されたものである。気象予報技術は年々高度化する一方、気象予報士が資格取得後の技術研鑽が個人の努力に任されているのが実情である。そ

こで、現状の局地予報の技術を整理し、気象予報士の技術レベルを維持するためには、どうすれば良いかについて議論する。

制度ができた際に、官民の役割分担によって、国(気象庁)は防災と一般的な気象情報の提供にとどめ、付加価値を付けた個々のユーザーニーズにマッチした情報提供は民間に委ねる方針が打ち出された。情報提供手段の多様化によって、情報サービス面の進歩する一方、利用者側もより高度な情報を求める時代になっている。企業や社会が要求する気象ニーズに応えるためには、どういった技術開発が望まれるか、について議論する。

ここ数年の不景気の影響で、気象業界そのものの発展が停滞し、多くの気象予報士が資格を生かした職場に付けられないのも実情である。気象予報士が活躍する場をどのように開拓していくかについても考えていきたい。

この分科会では、様々な分野の気象予報士をパネラーにまねき、シンポジウム形式で開催する。

コンピーナー：平松信昭（日本気象協会）

気象技術講習会開催のお知らせ

(社)日本気象学会は、(財)気象業務支援センターと共催で、初心者を対象とした講習会を以下の要領で実施する。

1. 講習会名称：気象技術講習会「気象学の基礎」課程（第7回）
2. 講習内容：気象技術習得のための気象学とそれに関する数学・物理の基礎を解説する入門講座
3. 期間：平成15年2月26日（水）～4月30日（水）までの毎週水曜日（全10回）
（講習終了後、レポートを提出して頂き、合格者に「修了証」を発行する）
4. 時間：14時～17時
5. 受講料：1人 42,000円（教材費込み、税込）
6. 講習会場：
（財）気象業務支援センター 4F 会議室
東京都千代田区神田錦町3-17 東ネンビル
（地下鉄東西線竹橋駅下車徒歩3分）

7. 定員：40名（定員になり次第締切）
8. 申込締切：平成15年2月19日（水）当日消印有効
9. 申込方法：「気象学の基礎課程」受講希望と明記し、必要事項（住所、氏名・ふりがな、電話番号、勤務先/学校名、年齢）を書いて、以下の申込先にハガキまたはFax。あるいはE-mailで申し込んでください。
10. 申込先：〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-17 東ネンビル
（財）気象業務支援センター
「基礎課程講習会」係
Fax：03-5281-0443
E-mail：jmbsec@jmbsec.or.jp

詳細は（財）気象業務支援センター（<http://www.jmbsec.or.jp/>）及び（社）日本気象学会ホームページ（<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>）に掲載。案内書は上記申込先にハガキまたはFaxで請求してください。